

鉄道研究会の本懐を遂げたコーナー

野上電鉄へ行ってきた (ただそれだけ)

k a z u t a r o . 5

廃止となるとカメラを持って集まるというのが、テッチャンの習性だ。元テッチャンカメラマンの私も「いかなわけにはいかなあ」ので行ってきたぞ。

2月13日は、気温も高く良い天気だった。まさに小春日和の好天だった。8時30分に千里を出て近畿道・阪和道を通ると堺だ。そこからしばらく地道を走り、阪和道の南部分に入る。新空港を見ながら快適な高速を飛ばし、山を越えると和歌山。阪和道の海南東出口で降りる。ここまでおよそ2時間弱。



すぐ野上電鉄の踏切を通る。あとは線路沿いに走らせれば、いたるところに撮影ポイントを見つけることが出来る。

しかし、野上鉄道の周辺というのは『いかにも30年代』というレトロな感じの街道風景ですな。県道の幅は、乗用車ならすれ違うことが出来るが、大型車がきたら徐行もしくは待避しないと危ないくらい。婆さんの手押し車や野良着のおっちゃんの自転車が先行しており、後続の車はなかなか抜くことが出来ない。周辺の民家も県道に迫り出しており、高度経済成長（死語？）に取り残されちまったなあという感じの街なのだ。



野上鉄道が廃線になったら、バスで代行するんだらうけど、この道ではバス代行もなかなか大変な感じがするぞ。いっそ廃線の跡地をバス専用路にしては？そんでレールバスを走らせる、と。さらに環境問題も考えトロリーバスにする、と。するっと『新・野上電鉄』が出来上がるじゃあ～りませんか。

(パチパチ！)

終点・登山口駅周辺まで、約30分。駅周辺は、いちおうこのあたりの中心地らしく、町立の小中学校があったりする。でもとりたてて見るものもなかったわ。駅の端で朽ち果てた車両の横で洗濯ものが干されていたのが、妙に印象的だったけど。

車を走らせて撮影ポイントを物色する。県立高校のあたりで車を止め、周囲で撮影。WOOの取材班もこのあたりで撮ったようやねえ。

昼過ぎには撮影を終え、海南に戻る。少し和歌山寄りの『海南自然博物館』による。海遊館にはかなわんけど、でっかい水槽があって、南海の魚が泳いどった。期待してへんかったけどエエ勉強になった。

この後、高速代をケチって堺まで国道を走ったけど、すごい大変やった。阪和道は価値あるわ。

走行距離 255km

(おわり)



OH!WOO!!掲載時とは
写真やレイアウトを変えてあります。